

# こんどうせいほうようつきかざりかなぐ 金銅製歩揺付飾金具

## 金銅製歩揺付飾金具の基本情報

金銅製歩揺付飾金具は、六角形の台座とその台座から立ち上がる大小7本の立柱<sup>りっちゅう</sup>から成ります。

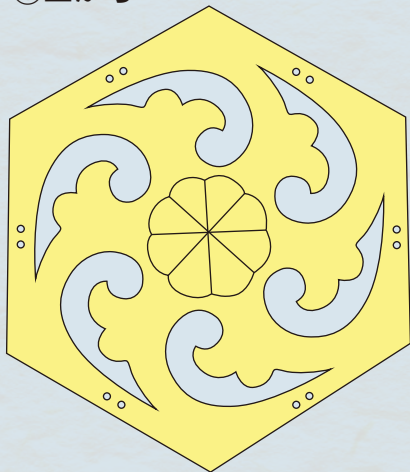
①台座には唐草文<sup>からくさもん</sup>が彫られています。中央の部分は立体的に作られていて、上からは花形に見えるようになっています。また、六角形の各辺の中央には2個1組の小さな孔<sup>りゅう</sup>が明けられており、革帯<sup>と</sup>に綴じ付けられたと考えられます。

台座の中央には②立柱があり、③葉っぱのような飾り<sup>ほよう</sup>（歩揺<sup>かぎ</sup>）を下げるために先端に鉤<sup>かぎ</sup>を付けたアームが立柱から8本傘の骨のように広がっています。台座の六角形の角の部分には、中央のものよりも④小ぶりの立柱が立てられています。先端に鉤<sup>かぎ</sup>を付けたアームは4本で、⑤歩揺<sup>かぎ</sup>が下がっています。

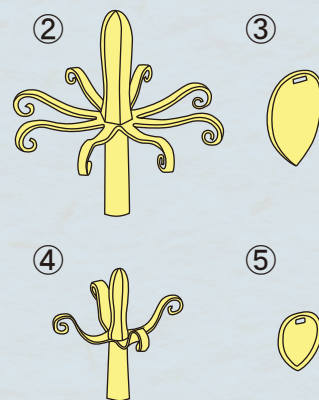
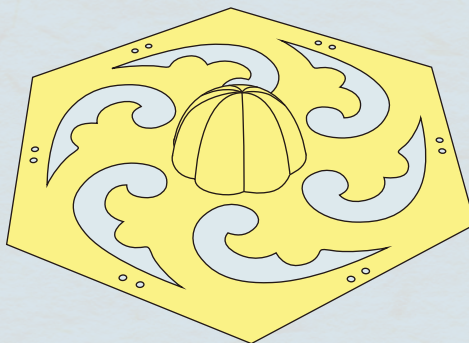


金銅製歩揺付飾金具の復元 CG

①上から



①斜め上から

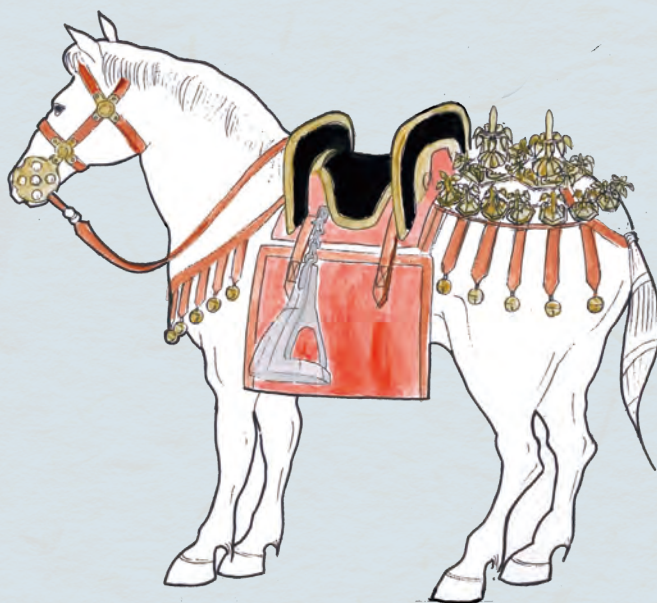


金銅製歩揺付飾金具の各部品の模式図（番号は本文と対応）

## 金銅製歩揺付飾金具の特徴

金銅製歩揺付飾金具は、奈良県<sup>ふじ</sup>の藤<sup>の</sup>木古墳や群馬県<sup>わたぬま</sup>の綿貫<sup>観音山</sup>古墳、福岡県<sup>おきのしま</sup>の沖ノ島<sup>いし</sup>祭祀遺跡などでも歩揺と立柱のみのものが見つかっていますが、船原古墳で見つかったものは複数の立柱と台座を組み合わせたこれまでにない複雑な形のものでした。

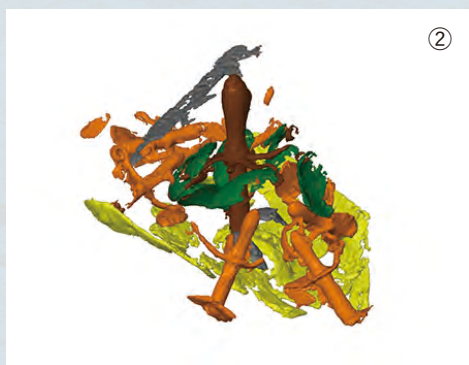
六角形の台座のものは1号土坑から少なくとも4点見つかっていて、これらが組み合って馬を飾り立てたのでしょう。馬が歩くのにあわせて歩揺が揺れる優美なデザインの逸品です。



金銅製歩揺付飾金具を取り付けた様子の想定図

## 金銅製歩揺付飾金具の復元

船原古墳1号土坑の調査では、土が多く付いた状態のまま遺物を取り上げています。これは有機質遺物（革や布等）の保存のためでしたが、このように取り上げた土の塊の状態の遺物の一つに金銅製歩揺付飾金具がありました（下の画像①）、X線CTスキャナで撮影すると、土の中には大小の小枝のようなものや文様板の破片などがあることがわかりました（下の画像②）。これを基に、それぞれの破片をデータ上で本来の位置に戻して（下の画像③）、足りないと思われる部分を補うと、復元CGのようなきらびやかな飾りに復元できました。



金銅製歩揺付飾金具の復元の過程

古賀市立歴史資料館

〒811-3103 福岡県古賀市中央二丁目13-1  
TEL 092-940-2683 FAX 092-944-6215

船原古墳最新情報のページのURL <https://www.city.koga.fukuoka.jp/cityhall/work/bunka/bunkazai/funabaru/>

令和3年3月発行